

Olympic
Movement

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 狭山市立入間野中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年11月27日（火）

■ク ラ ス：2年2組（39名）、2年3組（39名）

■オリンピアン：上田 藍 先生（トライアスロン）【出場オリンピック／北京大会、ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックバリューが身近にあるということ学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・準備体操として、ジョギングやストレッチをアドバイスしながら行った後、バスケットボールのドリブルと縄跳びを使ったプレトライアスロン(2種目)リレーを班対抗で実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗でトライアスロン(3種目)リレーを実施。1種目はバスケットボールのドリブル、2種目は縄跳びとし、3種目は各クラスとも意見を募った後、多数決で片足ジャンプ(ケンケン)に決定。
- 各回終了後に作戦タイムを設け、速くゴールするためにはどうしたらよいかをチーム毎に話し合った。

4. まとめ



- ・座学の時間は「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」という3つのオリンピックバリューについて、自身がオリンピックに出場した際の経験談等を交えながら詳しく説明する。この3つの言葉の意味を想像しながら座学の授業に臨み、オリンピックバリューが皆の身近にもあるものだということをしっかりと学んでほしいと伝え、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・皆の周りにもオリンピックバリューがあることを考えてもらいたい、と授業の目的を確認。
- ・日本トリアスロン選手権の映像を見せながらトリアスロンのルールや試合の駆け引き等競技の詳細やオリンピックシンボルの意味等について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



個人発問：普段の生活の中で経験したこと、感じたことの中でオリンピックバリューに当てはまることを書き出してみよう。また、これからの生活の中で、身近な目標を達成するためにオリンピックバリューをどう活かしていけるか書き出してみよう

グループ発問：個人で書き出した意見を班で共有し発表しよう。

発表：最後まで諦めずにベストを尽くす、先生からの指導をきちんと受け止める、自己ベストを出せるように努力する(エクセレンス)、一期一会を大切にす、笑顔で挨拶する、学校行事にクラスで協力して取り組む、辛い練習も友達と一緒に乗り越える(フレンドシップ)、校則を守る、部活で練習試合ができる環境に感謝する、試合相手に対して敬意を持つ、家族に感謝する(リスペクト)

4. まとめ



- ・今までオリンピックは遠い存在だと感じていたかもしれないが、オリンピックバリューは皆の身近にもある。オリンピックバリューは日常生活にもすべてつながっており、オリンピック教室で学んだことを心に留めておくことでオリンピックを身近に感じることができる。
- ・グループワークで話し合ったことを、今後夢や目標を見つけた時の支えや原動力にしてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成30年11月28日（水）

■ク ラ ス：2年1組（39名）、2年4組（38名）

■オリンピアン：星 瑞枝 先生（スキー・アルペン）【出場オリンピック／トリノ大会】



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通じてオリンピックと3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について学ぶとともに、東京2020大会を控え、オリンピックをもっと身近に感じてほしいと授業の目的を確認。
- ・準備体操として、ストレッチを行った後、ライン鬼ごっこを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗で生徒を旗門（ポール）に見立てながらリレーする、人間SLターンと、マーカーコーンを置いたSLターンリレーを実施。
- 1回目終了後に作戦タイムを設け、さらに速くゴールするためにはどのようにすればよいかを班毎に話し合った。

4. まとめ



- ・座学の時間はオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について詳しく説明するとともに、グループワークを行い、運動の時間に実践してみても皆がどのように感じたか、また、普段の生活の中どのようにオリンピックバリューを取り入れていけるかを発表してもらおうと予告。
- 休み時間を使って頭の中を整理し、考えておいてほしいと伝えて、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・運動の時間の感想を確認した後、オリンピックバリューについて黒板に掲示したパネルと配布した用紙に記載されていることに触れ、皆の日常生活の中で、どういものが当てはまるかを考える時間にしていきたくと授業の目的を確認。自己紹介を兼ねてトリノ大会の2本目の滑走映像を見せながらスキー競技(アルペン)について説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



個人発問：身近な目標を達成するために取り組みたいこと、意識したいこと等をオリンピックバリューに当てはめて書き出してみよう。

グループ発問：個人で書き出した意見を班で共有し発表しよう。

発表：毎日こつこつと練習する、去年の成績を超える、負けた試合を反省し振り返り今後に活かす、毎日の練習を大切に（エクセレンス）。部活の仲間で協力・努力・団結する、応援を頑張る、仲間と話し合う、仲間信頼し合う（フレンドシップ）。相手に失礼のないようにする、仲間感謝する、しっかり挨拶する、道具の手入れをしっかりとる、当たり前ことに感謝する（リスペクト）。

4. まとめ



・オリンピックバリューはスポーツだけでなく、身近なことにも当てはまる。それぞれの経験を財産に、これからの生活の中で今日学んだオリンピックバリューを思い出し、自分の活動の中に取り入れてほしい。これからの人生において、若い頃に経験することは大切な財産になっていく。今、積み重ねていくことは大人になった時に豊か生きる財産になっていくので、日常生活の一日一日を大切に、そして楽しく、感謝して過ごしてほしい、と伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

